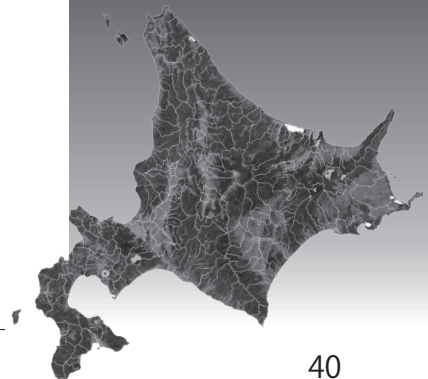


経営と健康

最終回

北海道名付け親・松浦武四郎

講談師 一龍斎貞花



をきちんとすれば、その方が顧客になつて頂けることが多い。サラリーマン時代営業の時、処理を誤まつたことしばしばです。私の経験です。

「蝦夷地を再び幕府の直轄にすべきである。松浦武四郎を幕府に登用するべきである」と、水戸斉昭を中心に何度も働きかけたが、その都度松前藩の反対で実現されなかつた。ロシアの軍艦が、国境設定の談判に長崎を訪れるや、幕府は改めて蝦夷地を調査し、安政二年西蝦夷地を直轄と決定。

「松浦武四郎、幕府御雇いを仰せつけ、箱館（函館）へ差しつかわす」

「ハッ、有難うございませう」
武四郎三十九歳でした。
箱館奉行堀織部正は、

「本来ならばもつと早く登用あつてしかるべきであつたが、松前藩の執拗

な反対で遅れたのじゃ。箱館奉行とはいえわしは隅々まで探索している訳ではない。アイヌ人のためというそなたの教えを受けねばならん。支配組頭の向山源太夫と共に、西蝦夷に新しい道路を整備してもらいたい。これは些少だが」

と餞別を。他にも斉昭はじめお出入りの諸侯からも、過分の餞別を贈られたのでございました。

旅の途中、重病にかかったり、大雪の中寝ていて身体が30cmも雪の中に沈み、凍死寸前ということもしばしば。その度、同行のアイヌ人に助けられたり、山奥では熊に襲われそうになることも度々でした。

民間人として三度、幕府御雇いとして三度、都合六度、それも長期間蝦夷を調査、安政六年に執筆した「近世蝦夷人物誌」は、武四郎とアイヌの人々がいかに信頼し合っているかが証明さ

れる素晴らしい本と言われ、アイヌの人々に対する認識を変えさせるものでした。奥地へ、奥地へと足を延ばし、歴史、風俗を調べ次々と出版。

和歌、漢詩、絵画、篆刻、古物の収集と好奇心、多芸多才。日誌百五十一冊、本三十八冊を出版。アイヌの文化と歴史を後世に伝えたのです。

アイヌ文化を判りやすく伝えるため、絵を中心に「蝦夷漫画」も出版し、多くの人々にアイヌ民族への理解を求めました。

武四郎の女性関係のエピソードは全くなく、堅物の武四郎が結婚したのは四十二歳の時。蝦夷地に没頭している武四郎を見かねて、周りの人が「いい加減に結婚しろ」と、勧めたんでしょ。深川の儒者に嫁いだが、夫が亡くなり未亡人となっていた旗本の娘とうと結婚、生まれた女の子に、故郷伊勢



23年前松浦武四郎を口演した時、ほとんどの方がご存知なかつた。今年一月北海道一五〇年とあつて口演したが、はじめて武四郎を知つたという人が少なくなかつた。三重県松阪市の武四郎記念館に、「資料を参考にさせて頂きます」そしてチラシも送つたが二度ともなしのつぶて。連載しているのは、千島問題もあるだけに知つて頂きたいという気持ちから。扱扱は沖縄の2・7倍の大きさなんです。問合せや、うるさい客ほど対応を誤まらないようにして下さい。苦情処理

国一志郡から一志と名付けました。

執筆のため御雇いご免願いが認められ、執筆に没頭し次々と出版。

明治元年、五十一歳の時、新政府から、箱館府判事、翌年蝦夷地開拓御用掛り、その後開拓大主典から、従五位開拓判官に任ぜられ、大出世です。

蝦夷地名変更提案

蝦夷の名称を変えようという動きがあり、そこで「北加伊道」「海北道」「日高見道」「海島道」「東北道」「千島道」の六つの候補を提案。

自ら北海道と名乗っていたので、北海道は提案しませんでした。

アイヌの地名は、地形や過去の歴史、産物などが加味されていて、江差はエサウシとかエサウシイといって、山が海岸まで出ている形というような意味があり、そこからアイヌの人々の発音を踏まえて漢字を当てる。北加伊道の加伊は、アイヌの人たちがカイとよく発音していたところからで、この北加伊道の名称こそ、前人未到の奥地まで同行してくれたアイヌの人々への思いを込めたものでした。

武四郎が提出した名称を、新政府の

高級官僚は己の意見を主張し喧々譁々。みんな自分の手柄にしたいんです。

明治二年九月二十九日、新政府は北海道と決定。北加伊道と北海道の折衷案ともとれるし、海の方が大海原でいいと思うかもしれないが、加伊が海と変更されたことは武四郎にとって大きな違いがありました。北海道を提案していたら、自分の名前を付けるのかと、北海道とはならなかったかも。

松浦武四郎記念館に

「武四郎は噂以上の人物で、幕府に入ってくれたので北の地域のことは心配ない」と、大久保利通が岩倉具視にあてた手紙。木戸孝允が「戊辰戦争で幕府側について戦った会津藩士たちを北海道へ移住させる件で、武四郎に意見を求めた手紙が展示されており、同じく賊軍となった伊達藩を送る相談も、武四郎がいかに信頼されていたかが分かります。明治七年宮城から第一回に九十二家族が移住し伊達市の地名がある。

新政府は土地の名前などどんどん和風に変更し、同化政策を推し進め、言葉や慣習、文化の多くを破壊し憲法も

旧土人法、政治家も打つ棄つたままでアイヌ出身の人が参議院議員となり、平成九年旧土人法廃止。今国会でやっ

と先住民が認められました。しかし、アイヌ人の遺骨は、明治と昭和三十年代に人類学者、解剖学者らが墓地から掘り出し研究に使い、ここ数年アイヌの団体が遺骨の返還を求め、二〇一八年六月北海道大学副学長が三体返還するも謝罪無し。今なお全国の十二大学で千六百体近く保管され、その六割近くが北大にあり、国は白老町に作る慰霊施設へ集約する方針ですが、F35購入ほど積極的ではありません。

「アイヌの人々の歴史、風俗、心など少しも考えていない。散々搾取した請負人を復活させ旧幕府時代と少しも違わない。相変わらず机の前に坐って実態を省みない。これはとても耐えられない。北海道の開拓から身を引こう」と、わずか七カ月で判官の地位ばかりか従五位まで返上。明治政府は、武四郎の功績を認め終身十五人扶持（手取り年収約九十両）を与えてくれました。

「そなたに、また苦勞をかける。どうじゃ二人で旅をしよう」

明治十二年六十二歳の時、妻と生涯一度きりの夫婦旅、京都、奈良、大阪、神戸へと、自分を支えてくれた妻へのお礼心から、妻は夫との旅にうれしさ一杯でした。その後七十歳の時にも一人、中国、四国、九州を旅するなど正に炎の旅人でした。

明治二十一年外出先で、脳溢血で倒れ神田五軒町の自宅へ運ばれ、明治新政府は危篤の報に、功績を評価して返上した従五位を再び与え、二月十日七十一歳の生涯を閉じ、浅草今戸の称福寺にお墓が建てられ、現在は染井霊園にお墓。樺太一カ所はじめ北海道全域に顕彰像や、石碑、説明板、歌碑など五十基以上あると言われ、私はその内の二つしか見ておりません。

平成六年、郷里松阪市三雲町に記念館が建てられ、その生涯を紹介。資料千五百点余りが国の重要文化財に指定され、外神田に住居跡の碑も。戒名、教光院釈遍照北海居士。

生涯を旅に生き、アイヌの人々に愛情をもって接し、知られざるアイヌ文化と歴史を全国で紹介。蝦夷地の第一人者と言われ、北海道百五十年、北海道名付け親松浦武四郎の第一席を申し上げます。パパン